２０１２／０５／１３　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：主の御旨に沿った女性たち
聖書箇所：テトスの手紙　２章３－５節

私たちはいろいろなことを神に感謝しなければいけませんが、その中の一つ、それは神は私たちのこの群れの中に主を愛するたくさんの婦人たちを与えてくださっているということです。信仰的な婦人たちが与えられていることです。神を愛し、みことばを愛し、そして、救い主を誇りながら主に従っておられる皆さん一人ひとりを神が豊かに祝してくださることを心から願います。今日、私たちは「母の日」ということもあって、婦人たちに対する神のメッセージをごいっしょに見ていきたいと思います。皆さんがよくご存じの聖書の箇所を今日は敢えて選びました。テトスへの手紙２章です。３－５節を学んでいきます。

先ず、３節を見ると、パウロは年配の婦人、子育てを一応終えられた皆さんに対して教えていることが分かります。**「同じように、年をとった婦人たちには、神に仕えている者らしく敬虔にふるまい、悪口を言わず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。」**。パウロは２節で**「老人たちには、…」**と年配の男性たちに対する教えを為した後、**「同じように、年をとった婦人たちには、」**と言って、今度は婦人たちに対する教えを与えるのです。多くの方は「私はもう子どもを育てるその時期は終わった」とかある方はもうすでにご主人を天に送っているから、「私の地上における働きはもう終わったのではないか」と、そのように思っておられるかもしれません。いいえ、聖書を見る時にまだ終わっていません。まだ大切な働きが残っているのです。残っているから、神は今日皆さんを生かしておられるのです。この地上に置いてくださっているのです。

どんな働きがまだ残っているのでしょう？そのことをパウロは実はここに記しています。パウロはこの聖書の箇所を通して大切な役割を教えるのです。そして、その上で今度は若い婦人たちに対しても、「実はあなたたちにも大切な責任がある」ということを教えます。ですから、年齢がどうあろうと、ぜひ、皆さんはこのみことばをしっかり学んで、みことばを実践する婦人としてこれからも歩み続けていただきたいと願うのです。先ず、先ほどから話しているように、年配の婦人に対するパウロの教えを見ていきます。

☆年配の婦人に対するパウロの教え

Ａ．主に対する責任　　３節

パウロは年齢がどうであろうとあなたの責任は「霊的に成長し続けていくことです」と言います。あなたは益々イエスに似た者として成長して行くように、信仰において成長するようにと、パウロはあなたに勧めます。そして、この３節でパウロは四つのことを教えています。どうぞ皆さん、この四つのことを覚えてください。そして、この四つのことをもってご自分を吟味してみてください。そのような歩みをすでに為しておられるなら、どうぞ続けてそのように歩んでください。もし、どこかでそれと違った歩みをしていることに気づいたら、改めて、その歩みを今から始めてください。いずれにしろ、パウロはこのようなことをあなたに命じています。

１．キリスト者にふさわしい行ない

「神に仕えている者らしく敬虔にふるまい、」と記されています。パウロは年配のあなたに対して、神に仕えている者らしく、それにふさわしく歩んでいきなさい、それにふさわしい行ないを為しなさいということを最初に教えるのです。日本語の聖書を見ると、**「年をとった婦人たちには、」**のその後に**「神に仕えている者にふさわしく敬虔に」**とあって、長い文章ですが、実は、これは一つのギリシャ語です。「聖い」という意味をもったことばと「適当である、ふさわしい」ということばが合成してできたことばをパウロはここで使っているのです。彼が何を言いたかったのか、聖なる者にふさわしい、つまり、イエス・キリストによって救われたクリスチャンにふさわしい、救われた者にふさわしく生きていきなさいということです。それがパウロが最初に教えることです。しかも、その行ないはうわべだけのものであってはならないということを教えるために、次に、このような名詞を付けています。それは**「ふるまい」**という名詞です。このことばは、心、からだなどの状態であったり、態度を表わすことばです。ですから、クリスチャンとしてふさわしい行ないを為しなさい、しかも、それはうわべだけのものではなく、心からの行ないでなければならないとパウロは言うのです。あなたの為すことが本当に心が伴ったものなのかどうか、そのことをパウロはここで問いかけているのです。そうでなければいけない、あなたの為すことは心からのものでなければならない、心から神に喜んでいただきたいという願いをもっ

て、その心をもってすべてのことを為して行きなさいと教えるのです。
　このように見た時に、この教えは年配の人たちだけに適用されるものではありません。みなに適用されます。もちろん、女性だけでなく男性においてもそうです。私たち一人ひとり、主によって救われた者たちは考えなければいけないのです。救われた者にふさわしい行ないをしているかどうか、クリスチャンとしてキリスト者としてふさわしい行ないをしているかどうかです。
　婦人に対してパウロは、Ｉテモテ２：９－１０で**「同じように女も、つつましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪の形とか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、:10 むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行ないを自分の飾りとしなさい。」**と言っています。外見のことばかりを気にするのではなく、それよりも大切なものに心を配りなさいと言います。あなたがどのように生きていくのか、どのような行ないを為しているのか、その行ないが神を敬っていると言っているのにふさわしい行ないかどうか、そのことを吟味しなさいと言うのです。

２．キリスト者にふさわしいことば

　今度は行ないから「ことば」へとパウロは話を進めていきます。**「悪口を言わず、」**と記されています。ことばのことです。この「悪口」とは非常に面白いことばを使っています。このことばは新約聖書の中に３７回出て来ます。実際には３５節ですが、その中にだぶっている箇所があります。「悪口」と訳されているギリシャ語「ディアボロス」です。そのギリシャ語が３箇所だけ、今ここで見ているように、「悪口を言う」と訳されています。今見ているテトス２：３と、Ｉテモテ３：１１、Ⅱテモテ３：３にそのように訳されています。残りの３４箇所ではこの「ディアボロス」ということばがどのように訳されているのか？３４箇所のすべては「悪魔」と訳されています。だから、お分かりの通り、だれかの悪口を言うということは１００％悪魔が喜ぶことだということです。
　ですから、パウロがここで言うことは「ことばによって罪を犯してはいけない。却って、主がお喜びになることを話し、聞いている人々に信仰に役立つことを話しなさい。」です。恐らく、皆さんもよく覚えておられるように、エペソ４：２９に**「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」**とある通りです。ですから、みことばは私たち一人ひとりに、それも女性だけでなく男性においても、年齢に関係なく、自分のことばに責任をもたなければいけないと教えるのです。人のつまずきになることを口にしない、却って、私たちは人々の信仰の成長に役立つことを話していくのです。悪口は悪魔を喜ばせるもので、主なる神を喜ばせるものではないということです。
　この「悪口」と訳されたことばをもう少し見ていくと、「中傷する、口の悪い、誹謗者」という意味があり、実は、このことばは英語では次のような訳のあることばを使っています。「悪意がある、敵意がある、意地の悪いうわさ話、陰口、無駄話、ゴシップ」です。ですから、英語の聖書を見た時に、このことばはそのように訳していることが分かります。そうするとパウロが言わんとしているメッセージがもう少し具体的に見えて来ます。私たちの問題は、悪口を言っていながら悪口を言っていないと思っているケースがあるからです。だから、どうすればいいのか？私たちがだれか人のことを話すときによく考えなければいけないことは、何のためにそのことを口にしているかということです。ここで禁じられている悪口というのは、悪い心から出て来るものです。人に対する怒りが原因で出て来ることば、その人が嫌いでその人に対して悪いことばが出て来る、そのようなことを禁ずるのです。もちろん、そのような心があるならば、私たちは悪い動機でそのようなことを口にしてしまいます。例えば、その人を傷つけたい、その人の名誉や尊厳を傷つけたいと。悪口を言うのは、自分の怒りを人に共有してもらいたいからです。だれかのことを怒った時、だれかのことを嫌いになったら、周りの人にも同じように嫌って欲しいのです。だから、サタンが喜ぶと言うのです。
　聖書を見る時に、私たちはもし何か言いたいことがあるのならどうすればいいのかを教えてくれています。陰口を言うことではありません。だれかのことをその人がいない所で言うことは神の前に間違っています。誉めるのならいいです。問題があるなら、その本人の所に行きなさいと教えています。私たちが気を付けなければいけないことがあります。私たちがそのようなことを口にする時は、間違いなく、感情的になっています。その時には、これから自分が口にすることが神に喜ばれるかどうかなど考えもしません。ぜひ、覚えてください。私たちはみな、この点において弱さを持った者です。しかし、みことばを見るなら、それは決して神に喜ばれるものではありません。だから、私たちは自分のことばを神の助けをいただきながら制することです。語る時に、いや語る前に、それが本当に神に喜ばれるものかどうかを吟味することが必要です。
　パウロは年配の婦人たちに対して言います。「あなたの行ないがクリスチャンとしてふさわしいかど

うか、あなたのことばがクリスチャンとしてふさわしいかどうかを吟味しなさい。」と。

３．クリスチャンにふさわしい心

心へと話が展開して行きます。**「大酒のとりこにならず、」**とあります。なぜ、大酒のとりこになるのでしょう？満足がないからです。多くの人がアルコール中毒に陥ってしまう原因の一つは寂しさの余りだとよく聞きます。なぜ、飲酒に走ってしまうのか？自分の心が満たされていないからです。現実から逃避しようとするのです。私たちイエス・キリストによって救いに与った者たちは神から本当の満足をいただいた者です。そのはずです。これまではいろんなものをもって心が満ち足りるのではないかと思っていました。自分が理想とする環境になれば、自分の願い事が叶えばと。しかし、そこには本当の満足がないことを私たちはいやというほど教えられて来ました。満足は神だけが与えることのできるものです。それなら、私たちは物があろうとなかろうと、自分の思い通りに物事が進もうと進まないとも関係ないのです。神が私たちのうちでお喜びになっているなら私たちは喜ぶし、神が私たちのうちにいてくださることによって、その神を見上げることによって神が私たちに満足を与えてくださるのです。

神のところに満足を求めないでそれ以外のところに満足を求めようとする、そのことに問題があるのです。パウロが言うことは「もし、信仰者であるあなたが大酒のとりこになっているなら、あなたの発しているメッセージは『主イエス・キリストのところには本当の満足はありません。それ以外のところに満足を探さなければいけない。』ということになる。」です。そのような歩みは正しくありません。

４．キリスト者にふさわしい忠実さ

私たちイエス・キリストの恵みによって救われた者たちは、別の言い方をすれば、みな主の奴隷です。私たちがこの地上にいるのは、私たちの主人である神をどのように喜ばせるかを考えて生きているはずだからです。ですから、私たちは私たちに託された責任を忠実に果たしていこうとするのです。３節の最後には**「良いことを教える者であるように。」**とあります。良いことを教えなさいと言うのです。**「良いこと」**とは何でしょう？それは神のみことばです。それが私たちにとって一番大切なものです。なぜなら、みことばによって人は救われるからです。みことばによって私たちは成長して行くからです。ですから、私たちは神のおことばを教えていこうとするのです。すべての人に対して神の前に正しく歩むようにと教えるのです。助言を与えるのです。時にはまた、励ましを与えたり、また、必要であればその罪の叱責を為したりすることがあります。そうして人々は変えられていきます。パウロがここで言うことは「あなたも主の恵みによって救われた者です。地上にいる間、その恵みによって救われた者として忠実に歩み続けていきなさい」です。

良いことを自分がしっかりと実践するだけでなく、そのことを人々に教えていきなさいと言います。まさにこれはあの「大命令」であると言えませんか？イエスが与えた大命令は、私たちが出て行ってイエスのことを話して、人々がその福音によって救われて、救われた人たちに私たちは神のみことばを伝えてそれによって彼らが成長して行くことです。私たちはその務めを神からいただいた者として、その務めを果して行きなさいと言われているのです。

ですから、まず皆さんに見ていただきたいのは、３節にある通り、年配の女性に対してパウロが言ったことはこの四つのことです。それをまとめるとこうなります。「信仰者として良い模範を示して行きなさい。」です。イエスを救い主と信じてこの救いに与って信仰の歩みをずっと続けて来られた皆さんに、「後から続いて来る者たちに良き模範を示して行きなさい。」とパウロはそのように言うのです。

◎目的、結果＝４節の初めを見てください。**「そうすれば」**という接続詞が出て来ます。これは目的や結果を表わす接続詞です。それをパウロはここで使うのです。つまり、彼が言いたかったことは「もし、あなたがこのように歩み続けるなら、ある結果をもたらすことになる。次のような結果がそこに訪れる。」ということです。どのような結果でしょう？若い人たちに対してすばらしいレッスンになる。あなたの後に続いて来る若い人たちにすばらしい教えを提供することになるとパウロは言います。

ですから、４－５節**「そうすれば、彼女たちは、」**、つまり、３節で言われた年配の婦人たちのことですが、**「彼女たちは、若い婦人たちに向かって、」**と、その後に動詞が出て来ます。**「さとすことができるのです。」**と。今見たように、あなたがクリスチャンとしてそれにふさわしく歩んでいくなら、あなたはあなたの後に続いて来る若い人たちをさとすことができるようになるということです。

この「さとす」ということばは「訓練をする、思慮分別をつける、教育する」という意味です。だから、日本語で「さとす」と訳したのです。「教え導くこと」だからです。皆さん、少し見えて来ましたか？信仰の先輩たちには大きな責任があるのです。あなたは、あなたの後に続いて来る者たちに神の恵みによって救われた私たちはこのように生きていくのだという模範を残している。人々があなたの生き様を見て「私もこの婦人のように生きていきたい。」と言われるような婦人でありなさいとパウロは言

っているのです。
　私たちは本当に弱く罪深い者です。恐らく、皆さんも一度ならず経験したことがあるでしょう？「みこころは分かっているけれど自分のやりたいことをやっていきたい！」と、その葛藤です。その時にどうしますか？これはみこころに反すると思うけれど自分のやりたいことをやりたいと思った時にどうするか？それを正当化してくれる人物を捜します。「この人はだめ、この人は聖書に従っているから、この人に聞いたら多分ノーと言われる。Ｂさんもだめ、Ｃさんもだめ…。この人はどうかしら？この人は私が望んでいることと同じことをやっているから…」と、そのような人を見つけて「私よりもずっと信仰の先輩であるこの人がこのように生きている、だから、私も…」となります。もちろん、このようなことの問題はそのような選択する人物に問題があることは明らかです。正しくないと分かっていてそれをするということに問題があります。しかし、皆さん、弱い私たちはそのように働くのです。私たちは「この人のように生きていきたい。だって、この人も私のやりたいことをやっているから…」と、そのような悪い模範にはなりたくですね。あなたの悪い模範に倣って「私も同じように生きる」と言われることなどあってはならないことです。だから、私たちは自らの歩みをいつも吟味することが必要なのです。
　最初に私たちが見たように、私たちは神の恵みによって救いに与った者として本当にふさわしく生きているかどうかです。そして、私たちが分かっていることは、私たちはみな不完全です。悲しいことに、失敗の連続です。しなくてもいいことをしたり、言わなくていいことを言ってみたり、それが正しいことであっても、正しくない心の態度で言ってしまったり、正しくない口調で話してしまったり、悲しいことに、私たちはそのようなことを繰り返している者たちです。それに気づいたなら私たちはその罪を主の前に告白することです。必要であればその人に謝罪して和解することです。そのようにして私たちは正しく歩んでいこうとするのです。パウロがここで教えていることは「信仰の先輩たちよ、あなたの後に続いて来る者たちに良き模範を示しなさい。」です。
　ですから、この「さとす」ということばの動詞の文法形を見る時に、パウロはここで敢えてあることを伝えるためにこの動詞をある形で使うのです。それを見て私たちが分かることは、パウロがここで**「さとすことができる」**と言ったのは、あなたがさとす人になって人々を助けていくようにと教えているということです。パウロは「さとす」という動詞を特別に使うことによって、信仰の先輩であるあなたが、後に続いて来る者たちに対して助けを与えていくようにと願っているのです。だから、パウロがこの５節で「あなたがこのように生きていくなら若い人たちをさとすことができる。あなたはその若い人たちを助けていくように。」と言っているのは、パウロがそのことを強く願っていたことを私たちは見ることができるのです。ですから、パウロは非常に強い思いをもって「あなたには大きな責任がある。信仰の先輩たちよ、若い人たちがあなたの生き様を見てそれに倣っていくように彼らを助けていきなさい。」と、そのように願っていたこと、望んでいたことがこの動詞の時制を見る時に教えられるのです。
　もう一つ、皆さんに見ていただきたいことは、若い人たちを教えていくというこの働き、この責任についてパウロは教えていますが、その働きをパウロは年配の婦人たちに命じているということです。若い人たちが神の前に正しく歩んでいくようにと教えていくその責任を、パウロは年配の婦人たちに与えたのです。見てください。牧師に与えていないのです。教会という組織を見た時に、神がその教会の中にあって何を望んでいるのか？それは信仰の先輩がその後に続く者たちを教えていくことです。ですから、敢えてパウロはここで、その年配の婦人たちに対して「あなたたちには大きな責任がある。大切な責任がある。それはあなたたちの後に続く者たちをしっかり教え導いていくことだ。」と言うのです。だから、教会に来て、教師から教えを聞いてそれで終わりではないのです。皆さんはその教えに従うことによって模範を示して、そして、あなたの後に続く者たちを教え導いていくのです。もし、そのような教会に私たちの教会が変えられていくならば、確実に、神の栄光が現わされて行きます。
　さて、この四つのことを教えたパウロは、あなたがこれらのことを為していくなら次のような結果が伴うと、４節からそのことを教えています。
Ｂ．若い女性に対する責任　　４－５節
　４－５節**「そうすれば、彼女たちは、若い婦人たちに向かって、夫を愛し、子どもを愛し、:5 慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さとすことができるのです。」**
１．夫を愛する
　もし、年配の婦人たちがこのようにすばらしい模範を示すなら、あなたたちは若い婦人たちに向かって「夫を愛する」ということをさとすことができると言います。この４－５節を見ると、これは既婚女性に対する教えであることは明らかです。パウロが最初に言うことは「夫を愛する」ということです。

結婚している皆さんに言えることは、あなたの最優先事項は「あなたの夫を愛すること」です。仕事でもないし親でもないのです。ましてや子どもでもないのです。あなたの最優先事項はあなたの伴侶を愛することです。しかも、この愛に関してパウロが言ったのは無条件の愛です。なぜなら、ここには条件も例外も記されていません。あなたの意志に対してパウロは教えるのです。夫を愛しなさいと。このような夫なら愛しなさい、こんなことをしてくれたら愛しなさいという条件はありません。パウロはあなたの意志をもって「私は夫を愛する」と決めてそのように愛していきなさいと言います。

もちろん、どのような夫であっても愛しなさいと聖書は教えています。ペテロは私たちに、相手がまだイエスを知らない人であってもクリスチャンであるあなたはその夫を愛し従っていきなさいと教えています。Ⅰペテロ３：１－２に**「同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。:2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。」**とある通りです。みことばに従わない夫であってもそのように愛して従って行きなさいと言います。

さて、パウロのこの命令を見ました。二つの質問をさせてください。

［質問１］：あなたはご自分の夫を尊敬していますか？

夫のことを批判したり悪口を口にしていないかどうか？あなたはご自分の夫を自慢していますか？夫を愛すると言った時に、私たちは間違いなくこのみことばから、夫を批判しない、悪口を言わない、却って、夫を自慢すること、それが必要なことだと分かります。二人の女性を紹介します。

◎ダビデの最初の妻、ミカル

旧約聖書、Ⅱサムエル記６章に記されているミカルという女性のことです。ダビデの最初の妻でした。サウル王の娘であって、このミカルはダビデのことを愛していたことが聖書に記されています。それでサウル王は結婚を許すのですが、サウルには別の策略がありました。ダビデを殺してしまおうというものです。それはともかくとして、この女性のことを見てください。６：１６から**「主の箱はダビデの町にはいった。」**とあります。契約の箱です。この箱の中にはご存じのように十戒の板があり、マナが入った金の壷があり、そして、アロンの杖があったのですが、その主の箱がダビデの町へと入って来ました。ダビデはそれを見て大喜びするのですが、**「主の箱はダビデの町にはいった。サウルの娘ミカルは窓から見おろし、ダビデ王が主の前ではねたり踊ったりしているのを見て、心の中で彼をさげすんだ。」**とあります。

（１）心＝「心の中で彼をさげすんだ。」、「さげすんだ」と訳されているヘブライ語は「軽蔑、見下す、ひどく嫌う」という意味をもったことばです。ダビデの様子を見て彼女は自分の夫のことを軽蔑したのです。嫌ったのです。

（２）ことば＝そのような心の状態でしたから彼女のことばは、愛のこもったものでなかったことは明らかです。２０節**「ダビデが自分の家族を祝福するために戻ると、サウルの娘ミカルがダビデを迎えに出て来て言った。『イスラエルの王は、きょう、ほんとうに威厳がございましたね。ごろつきが恥ずかしげもなく裸になるように、きょう、あなたは自分の家来のはしための目の前で裸におなりになって。』」**と言っています。どんな口調であったかは想像がつきます。ミカルはダビデのことを軽蔑したのです。夫のことをさげすんだ妻、そのような心からこんなことばが出て来ました。

（３）夫婦関係に問題＝その結果、この夫婦には悲劇が訪れます。２３節を見ると**「サウルの娘ミカルには死ぬまで子どもがなかった。」**とあります。なぜか？ダビデが彼女から距離を置いたからです。このような悲惨な様子が確かに聖書には記されているのです。

◎アブラハムの妻、サラ

もう一人の婦人はアブラハムの妻「サラ」です。Ⅰペテロ３：６に**「たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことをも恐れないで善を行なえば、サラの子となるのです。」**と記されています。サラは自分の主人であるアブラハムのことを「主」と呼んで彼に従い続けたと言うのです。どういう意味でしょう？この**「主と呼んで」**とは「尊敬した」ということです。サラはアブラハムのことを尊敬した、尊敬し続けたのです。そして、ご存じのように神は彼らを大いに祝されました。全く違う結末がこのように聖書の中に記されています。

ですから少なくとも、私たちが「夫を愛する」ということを考える時に、皆さんにお尋ねしなければいけないのです。それは皆さんに話したように「あなたはご自分の夫を心から尊敬していますか？」ということです。非常に大切なことです。このことを進める前にもう一つの質問をします。

［質問２］あなたはご自分の夫を助けていますか？

ご存じのように、創造のところに戻って、なぜ、女性が創造されたのか？夫を助けるためです。女性は夫の助け手として造られ与えられました。しかし、聖書が言うように、夫を助けているかというと、

先程から見て来ているように、夫を助けるのではなくて見下しているケースがあったりします。なぜ、このことが実現できないのでしょうか？その理由の一つは、伴侶が自分の理想と異なるから、自分のもっている理想と現実とを比較して、それが余りにも違いすぎるからと、夫を尊敬することができない、夫を助けることもできないのです。却って、夫を自分の思い通りに操作しています。そのような人たちの中にある思いは「この人は自分にとってふさわしい人ではない。もっとすばらしい人と一緒になるべきだった。自分の結婚は失敗だった。別の人と一緒になっていればもっと幸せだったのに…」です。気を付けなければいけないことは、そのようにして自分を夫よりも高い所に置いて夫をさばいてしまうことです。いつの間にか、主が与えてくださった人だということを忘れてしまっているのです。

ですから、パウロはここで妻たちに対して「夫を愛しなさい」と言ったのです。あなたにとって大切なことは、神があなたに与えてくださった夫を無条件で愛することです。彼を心から敬って、そして、彼を助けてあげなさい、愛する決心をして、それを実践していきなさいと言うのです。

皆さんよくご存じのように、箴言３１篇にはすばらしい妻の教えがなされています。１１節**「夫の心は彼女を信頼し、」**、また、２８－２９節**「その子たちは立ち上がって、彼女を幸いな者と言い、夫も彼女をほめたたえて言う。『しっかりしたことをする女は多いけれど、あなたはそのすべてにまさっている。』と。」**

質問１＝どうして、この夫は自分の妻をこんなに信頼しているのでしょう？

質問２＝どうして、子どもたちが、また、夫が妻をこんなに誉めているのでしょう？

その理由＝

（１）夫を愛しているから

一つは、彼女が夫を愛しているからです。１２節を見てください。**「彼女は生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。」**とあるからです。だから、夫は彼女を愛するのです。夫は彼女を信頼するのです。夫は彼女を誉めるのです。**「良いこと」**とは「善」です。善を行ない続けていくというのです。悪いことをしないのです。夫にとって苦しいことや悩むことを一切しないと言うのです。なぜですか？愛しているからです。夫にとって良いことをして行こう、その人にとってプラスになることをして行こう、その人が喜ぶことをして行こうと言うのです。しかも、**「生きながらえている間、」**、すなわち、彼女が地上にいる間の日々をずっとその目的のために生きていくと言うのです。だから、この妻は誉められているのです。だから、この女性はすばらしい女性として、女性の鏡として記されているのです。彼女は夫を愛するゆえに、愛する人のために、その人にとって良いことだけをし続けていくと言うのです。

（２）主を愛しているから

もう一つの理由は、夫を愛するだけでなく、間違いなく、神を愛していることです。だから、３０節にこのように記されています。**「麗しさはいつわり。美しさはむなしい。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。」**と。彼女は神を愛していたからこのように夫を愛したのです。主を恐れる女性であった。あらゆる悪を避け、神の前に正しく歩んでいるのです。神を愛するゆえに、神から与えられた妻としての責任を忠実に果たそうとしているのです。

質問３＝なぜ、このことが重要なのか？

なぜ、このように生きていくことが重要なのでしょう？なぜ、夫を愛することが、夫を尊敬することが、夫を助けていくことが大切なのでしょう？それはあなたがそのように為すなら、あなたはすばらしい祝福をもたらすからです。みことばがそのことを私たちに教えています。あなたがこのような妻として歩むことによって夫が祝されていくのです。同じ箴言３１：２３に**「夫は町囲みのうちで人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。」**」とあります。この**「町囲み」**とは政治を行なう場所でした。長老たちが集まって来て、そこでさばきを為したり、律法について話をしたりする、そのような場所のことです。みことばを見ると**「土地の長老たちとともに座に着く。」**とあり、夫は土地の長老たちとともに座に着くのです。つまり、彼はリーダーの一人なのです。今見て来たように、彼がそのようなリーダーとして大切な働きを為していくその鍵となっているのはこの妻なのです。彼女は決して自分の夫のリーダーシップをけなさないのです。さばかないのです。敬意を払うのです。彼を尊敬し彼に仕えていこうとするのです。そのような妻の信仰のゆえに、見てください、彼は祝されて大いに用いられているのです。

私たちがよくやってしまうことは、自分自身のその不満足の状態をだれかのせいにすることです。先程から見て来ているように、現実に、私たちは必ずだれかと自分を比較します。でも、みことばのどこを見てもそんなことは記されていません。最初に見たように、みことばに従わない夫であっても、あなたには責任があります。夫を愛し、夫に従っていくことです。だから、私たちがしなければいけないこ

とは、人のせいにすることを止めて、私たちがどのような者としてこれから生きていくのかを考えることです。神があなたに望んでおられることは、年配の婦人なら、あなたの行ないにおいてもことばにおいても、あなたの心においても忠実さにおいても、益々主が喜ばれるように生きていくことです。あなたの後に続く者たちにすばらしい模範となるように生きていくのです。そこには夫を愛することも含まれています。ですから、そのように生きて来たあなただから、後に続いて来る者たちに「このように生きるのですよ」と、ことばをもって行ないをもって示して行くことができるのです。そして、みことばを見るなら、あなたが自分の夫を愛することによって、夫を心から尊敬することによって、彼を立て上げていくことによって、彼を持ち上げていくことによって、そして、彼に必要な助けを与えていくことによって、夫が祝されて夫が用いられていくのです。

確かに、私たち人間の頭では理解しがたいことかもしれませんが、神はそのように働くのです。なぜなら、あなたが神の前に忠実だからです。あなたが神の前に喜ばれる生き方をしているからです。だから、その家庭が祝されていくのです。だから、私たちは人のせいにするのを止めて、現実を見てそれを嘆くのではなくて、考えなくてはいけないのは、私は主に対して忠実に歩んでいるのかどうかです。私は良き妻として主に与えられた責任を果たしているのかどうかです。そのような妻としてあなたが成長して行くなら、神はあなたに、そして、あなたの家庭にすばらしい祝福を与えてくださるのです。箴言１２：４にこのようにあります。**「しっかりした妻は夫の冠。恥をもたらす妻は、夫の骨の中の腐れのようだ。」**と、厳しいことばです。

どうぞ、あなたのすばらしい家庭に祝福をもたらす、そんな妻として、そんな女性として歩み続けてください。どうすればいいのか聖書が教えてくれました。その決心をもって今日出て行くことです。「主よ、私を変えていってください。あなたが喜んでくださり、後に続いて来る者たちがあの人のように生きていきたい！と言うように。」と、そのような女性として歩み続けてください。

あなたの上に神の祝福がありますように。

《考えましょう》

１．主が、信仰歴が長い年配の婦人に与えられた責任は何でしたか？
２．夫に対してどのように接することが主のみこころでしたか？
３．悪口はどうして主の栄光を汚すのでしょうか？　悪口の例をいくつか挙げてみてください。
４．なぜ、みこころに従うことが大切なのでしょう？